

## アメリカの大学教授生活

高橋 安人

このところ海外渡航者が多くなって、本誌上でも海外事情欄が賑かになった。筆者にも、2年留守をしたら書く義務があるらしい。しかも編集委員の中から、“何か面白い、やわらかい話の方がよい”との声が出た。“デートの話なんかどうか”とヒントを下された人まである。デートの場面はよく見かけたが、生憎カメラにおさめたものがない。ボストンの対岸、MIT前のチャールズ河沿いの公園などフラッシュ持参で出掛けたらよかったと今さら残念に思うが仕方がない。そこで方向を変えて自分が体験した大学教授生活を漫談しようと思う。

最初にお断りしたいのは“アメリカの大学では”という書き出しで一般論の書けない点である。見るほどに聞くほどに千差万別の感を深くする場合が多かった。多くの大学のカatalogを集めたり、政府や工業教育関係学協会の資料でも見たら、ある程度の一般論に要約できるかもしれないが、それでは面白くなる。そこで話を局限して筆者のMITとカリフォルニア大学での見聞を中心にしよう。

ある朝、日本からの来客に会っていて出勤がひどくおくれた。昼近くに登学したら廊下で会った小使さんが“銀行屋になったのか”と冗談口をたたいた。彼らのことだから皮肉のつもりなど毛頭ないのだが、考えて見ると工学部の先生には出勤のきちんとしている人が多い。10時過ぎないと窓口を開かない銀行の現金出納掛なみの人は少ないようだ。事務職員、実験室作業員などにはそれぞれ厳守すべき出勤退出時間があるが教授連にはそれはない。しかし大抵は8~9時には出て5時頃帰るようだ。私は近くの教授連4人の“通勤グループ”に加わった。これは交替で自分の車へ乗せて行く仕組である。自分が当番のとき以外は車が空くので奥さんがそれを利用できる便利さがある。その代り誰かが8時からの講義を受持つことにもなり兼ねない。そのおつき合いで結局毎日早起きさせられた。とはいっても車で往復するのだから、ラッシュの国電のことを思えばらかなものだ。

東京辺の大学教授連の多くは学内や学外の委員会に時間をとられる被害者のようだ。しかしカリフォルニア大学でも多くの委員会がある。“委員会に関する委員会”まであって、およそ委員会に関する冗談はこの大学だけでも出つくしてしまった感がある由だ。ただ一つ気持のよいのは時間が守られる点である。予定時刻を10分以上過ぎても開かれないことはまずない。そしてあらかじめ示された終了予定時刻をひどく過ぎることも少ないよ

うだ。議長が時間を見て、てきばきさばいていく。これに比べると日本は？ Teehouse of August Moon には沖縄の住民が何かという集って悠長にお茶を飲む話はいくつもある。米人から見たら日本の委員会の多くも実にゆっくりお茶をすすりながらやっているように感ぜられるだろう。アメリカでは夕刻に終る会議があまりのびると、出口のところに駐車してご主人を待つ奥様連の計画まで狂わせてしまう。

最近アメリカでは御主人の就職採用をきめるとき夫人も面接するときいた。同僚との交際が夫妻を基盤とするので、これは当然の成行きかもしれない。大学には教官クラブの他に教官夫人クラブがある。時折のお茶の会をはじめとして各種の趣味教養グループの活動が頻繁に行われ、この夫人クラブはなかなか大した存在である。こんなグループに、ねたみだのかげ口などがからんで来たらそれこそ煩わしい限りであろうが、よくしたものでそんな心配はないようだ。“男女同権”だけは日本にも直輸入されたが、実際の日常がここまで到達するのはいつのことだろうか？

大学の先生といえば大抵は教えることが主になる。それも学部教育を重視する場合が多い。1/2雇用とか3/4雇用という途もあるが、100%雇用になると大体標準の授業負担は週6時間の講義に半日の学生実験くらいだろう。この標準負荷の下では週5日（土曜は休み）約40時間のうち3/8は教育関係にくわれ、研究や学外活動にあてられるのは3/8とされている。

学生が講義のきき放しでない反面に先生も講義時間だけをつぶしてすむものではない。講義内容の準備ばかりでなく、宿題や中間試験を極めて頻繁にやり、しかもその答案を学生に返さなければならない。点のつけ方に間違（マイナス側の）があると学生が抗議にやってくるからうっかりはできない。さらに毎週数時間は面接時間をきめて自室で待機し、質問や相談にくる学生に会わなければならない——そして彼らは事実やってくる。講義1時間当りの給与が東京あたりの私大が外来講師に支払う額の20倍とのことであるが、手数の方も何倍かかかるだろう。

給与といえば大体普通の教授——40~50才——で年8,000~10,000ドルのようだ。これを12等分して月給にするが、夏の3カ月は勤務から外される。夏休中の授業を志願して教えればそれだけ別の収入になる。会社へ行って働く人もあるし、旅行などで生活をたのしむ人も

ある。ただし、大旅行は6年に1回の1年有給休暇（正規の7割の給与で全休）を待つ。これが彼らの内地や外地に留学するチャンスになる。

この話に関連して昇進の問題がある。昇進には単に席を占拠して何年か過ぎたという事実ではなく、その間の業績が物をいう。そこで公平に業績を測ることが問題になる。最も測りやすいのは学会に出た研究論文の数である。そこで多くの場合にこれが拠りどころになるようだが、またこのやり方が繰返しての議論の種にもなる。

“教える能力”の方を加味しないのは不公平だというわけだ。

この点に関し変った試みをやっているのがワシントン大学（シヤトル市）であろう。それは学生に先生の点をつけさせるのである\*。ただしこの思想は新しいものでなく、アリストートルがすでに“晩餐のでき具合を的確に判定するのはそれを食べる来客であって、それをつくるコックではない”と記している。

さて学生に求められるのは、つぎの諸点を調査用紙に記入することである：

- 1. この調査回答で対象とする教官名、講義名称

\* ) E. R. Guthrie, The Evaluation of Teaching, —A Progress Report 1954, University of Washington.

**SURVEY OF STUDENT OPINION OF TEACHING**

Name of Instructor \_\_\_\_\_ Course and Number \_\_\_\_\_ Credits \_\_\_\_\_

College \_\_\_\_\_ Major \_\_\_\_\_ Year in College \_\_\_\_\_ Grade Point \_\_\_\_\_

The main task of the University is teaching. It is of first importance that the University be continuously informed of the quality of its teaching and the respects in which that teaching can be improved. Students are in a position to judge the quality of teaching from direct experience.

This survey is made at the invitation of your instructor in this class. He will receive a typed summary of your ratings and comments.

In order to indicate your opinion, first fill in the blanks with the names of five teachers you have had in University courses, not including your instructor in this course. Choose one who is outstanding, one who is superior, one who is competent, one whose teaching is only fair, and one whose teaching has been of less value to you than the teaching of the others. Write these names in order of their effectiveness as teachers from best to poorest. Be sure to fill in every space, using a different name in each one.

	NAME	DEPARTMENT
OUTSTANDING		
SUPERIOR		
COMPETENT		
ONLY FAIR		
OF LESS VALUE TO ME		

Then read the descriptions of the qualities below. You are to compare your instructor in this class with the five teachers you have just listed. Draw a circle around the number that indicates his position with respect to the other five. His name will make a sixth, so he can be assigned any number from 1 (better than any one on the list) to 6 (poorer than any one on the list).

Do this for each of the five qualities, making each answer a separate judgment. Obviously in only extreme rare cases will the circled number be the same for all qualities.

	(high)	(low)
1. Is clear and understandable in his explanations. . . . .	1 2 3 4 5 6	6 5 4 3 2 1
2. Takes an active, personal interest in the progress of his class. . . . .	1 2 3 4 5 6	6 5 4 3 2 1
3. Is friendly and sympathetic in manner. . . . .	1 2 3 4 5 6	6 5 4 3 2 1
4. Shows interest and enthusiasm in his subject . . . . .	1 2 3 4 5 6	6 5 4 3 2 1
5. Gets students interested in his subject. . . . .	1 2 3 4 5 6	6 5 4 3 2 1

Your instructor would like to know if there is something you believe he has done especially well in his teaching of this course. \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

Your instructor would also like to know what specific things you believe might be done to improve his teaching in this course. \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

学生が入入する調査用紙の一部（ワシントン大）

2. その学生の所属学科, 学年, 平均点.
3. 比較のために他の5人の教官名をつぎの要領により記す.
  - B. 特に素晴らしい教官 : 何某
  - C. 優れている教官 : 何某
  - D. 能力がある教官 : 何某
  - E. まず及第と思う教官 : 何某
  - F. 価値少なしと思う教官: 何某
4. この調査で対象とする教官がつぎの諸点につき上記B~Fの教官の誰か(たとえばC)と同等と思うときにはそれ(C)を丸で囲む. 5人の誰よりも上位ならA, 誰よりも劣るならGに丸をつける.
  - i. 講義の理解し易さ ABCDEFG
  - ii. クラスの学力向上への熱心さ ABCDEFG
  - iii. 態度の親しき親切さ ABCDEFG
  - iv. 担当科目の学問への熱心さ ABCDEFG
  - v. その科目への学生の惹付け方 ABCDEFG

大体以上のような調査票が出せろうとあとは数人の統計専門家の手にかかる。カーネギー財団の援助を得て大きな調査結果の念入な統計的検討が行われ、この調査結果にはかなりの信頼度のあることがわかってきたようである。これまでにわかったところでは:

1. 2年度以上繰返して試みたら旧学年の意見と新学年の意見との相関は0.9に近かった.
2. 学部学生と大学院学生の意見はかなり近い, 相関0.73.
3. クラスの大きさ(学生数), 学生の専門に直結の科目かそうでないかの区別, 成績のよい学生か悪い学生かによる意見の相違などはないようだ.
4. 点の辛さも関係しないようで, 辛いので有名な先生で上位の点を学生からももらう人もある. お世辞のうまい先生が点を多くもらう傾向はないようだ. 講義に熱心でしかも“学生も人間である”と考える先生の評判がよい.
5. 一人の先生の教え方が年と共に向上していくという証拠は統計からは出なかった. 助教授と教授の開きも見られない.

学生が点をつけるのでなくむしろ同僚の教授の一部が黒幕の向うで採点すべきだとの考えもある. しかしこの場合には問題の先生の教室における教えぶりほとんどの同僚が(頼りにならないうわさを除けば)知らないものである——先生というものは“話し手”であって“聞き手”ではないようだ. 何年前の些細なことからの印象が大きく評価を支配することもある. 一人が何かいうと他がそう信じてうわさのできる場合も考えられる. さらにねたみのたぐいまで混入する. こんなわけで, ワシントン大学ではむしろ学生に点をつけさせる方が同僚の採点よりよいという考えの教授が多い由である. なお

同一人についての同僚からの採点と学生からの採点との相関は案外低いらしい. 以上の方法は本当の昇進その他の人事資料にはまだ採用されてないようだが, 論文の数とか年の順などの昇進よりは上記のようなデータによる方がよいというのが筆者の会った副総長の意見でもあった.

ところで, 競争のはげしい国だけにいろいろのことはあるものの, 彼らの多くは朗らかに生活しているようだ. 特に比較的年長の教授でも常にユーモアと若さを失わないように思う. 毎朝10時ともなれば校門前のドラッグストアのスタンドにたむろし, 貨幣投げのかけ(日本でいうならあみだ)でコーヒー代支払者をきめる教授連である. そのなかのV教授とJ教授との間に戦われた試合を素っ破ぬいてこの稿を終りたい.

両先生は共に50前後の, 日本でいうとかなり上の方の教授である. J教授の著書が日本で翻訳された. 本人はこの日本語版では扉にある自分の名前しか分らないながらも, そのことが余程うれしかったらしい. 教室内の同僚に折あるごとに自慢した. V教授はそれをわらって計画をたてた.

ある日V教授は日本人学生を自室によんで, 自ら立案のJ教授あての手紙を日本式の便箋へ日本語に訳して書いてもらった. おまけに入念にも, その学生の郷里から日本の切手と消印のついた手紙として発送するよう依頼したものである.

J教授はその“ファンレター”をたしかに受取った. 一説によると読めないながらも, 再び自慢してまわったそうである. とにかくある日のこと, この手紙に何と書いてあるか説明してくれと筆者のところへやってきた. その内容は“あなたの「世界の女」という本にはすっかり魅了させられました”からはじまって, 誠に説明に苦勞する性質のものだった. ただし最後の“あなたの悪友より”という部分だけは外国式にV教授本人の苦心の悪筆で自署してあった.

J教授は第6感でその“悪友”をつきとめたらしい. 間もなくV教授の部屋で時折不思議な音がするようになった. V教授が来客と謹厳な顔で対談中にさえ突然奇妙な音がする. もちろん一人のときには飛出して音源をつきとめようとしたらしいが, すぐに止んでしまう. 忘れた頃にまた音がする.

この現象は原因不明のまま何カ月も過ぎたようだ. 前のV教授の陰謀に日本人学生が関係したように, 今度は小使さんが関係していた. 古参の小使さんともなると, 建物のことは先生よりよく知っているものだ. 古くなって使用しなくなった暖房水道の管が一本, 建物の片すみからV教授室の書棚裏にぬけて, そこで開孔のままになっていることを知っていたのはその小使さんだけだった.

ついにある日のこと, 建物のすみっこにしゃがんで古い管の端に向い奇怪な音を吹込んでいたJ教授のうしろにV教授が現われるにおよんで, この試合は終わった. その後間もなく二人の間には休戦協定が成立したそうである. (1957. 3. 4)